

内湖における外来魚駆除が魚類相等におよぼす効果

大山 明彦

◆背景・目的

彦根市にある曾根沼(21.6ha)において、平成15年5月以降、漁業者による外来魚駆除が積極的に行われている。この駆除が曾根沼の外来魚や在来魚に与える影響を評価するため、魚類の生息状況等を調査した。

◆成果の内容・特徴

- 曾根沼では平成15年度にはオオクチバス126.4kg、ブルーギル4086.5kg、平成16年度にはオオクチバス116.2kg、ブルーギル3531.9kgが駆除された。平成17年度は4月から10月までの間にオオクチバス15.7kg、ブルーギル1922尾65.8kgが駆除された。
- 平成17年5月でのブルーギルの当歳魚以外の生息数は44,877尾(95%信頼区間38,109尾~54,569尾)と推定され、前年比2分の1以下となった。
- 同じくカネヒラでは平成14年5尾、15年0尾、スジエビ同5尾、同63尾、テナガエビ同16尾、同23尾であったが、カネヒラでは16年に44尾、17年に205尾、スジエビでは同72尾、同149尾、テナガエビでは同628尾、同331尾となり、16、17年と採捕尾数は増加した。また、沼内で再生産を行っていると思われるカネヒラ、ギンブナはともに平成17年には当歳魚と思われる小型個体の採捕尾数が増加した。

◆成果の活用・留意点

- 曾根沼では、ブルーギル生息量の減少とともに、その駆除がより困難になることが予想される。来年度は、より効果的に駆除できる産卵期に集中した駆除を行うよう指導し、その効果の把握に努める。また、増加の兆しが見られるオオクチバスの駆除も積極的に行う予定である。

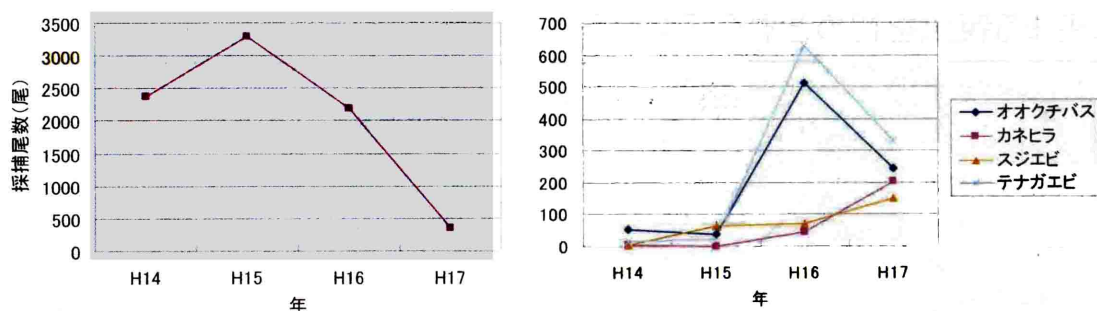


図 最近4か年の4月~9月までの曾根沼での小型定置網におけるブルーギルの採捕尾数(左)とオオクチバス、カネヒラ、スジエビ、テナガエビの採捕尾数(右)の推移。